

平和な島を沖縄県民の手に



「われわれは屈しない」。辺野古新基地建設を許さない「オール沖縄」のたたかいが続いている。この保革を超える連帯には源流があった。戦後の沖縄で、米軍支配への抵抗・本土復帰を求めた「島ぐるみ闘争」だ。不屈の精神でたたかいをリードしたのが、「カメさん」と呼ばれ親しまれた政治家・瀬長亀次郎(1907-2001)だ。亀次郎の資料や遺品などを展示する「不屈館」(沖縄県那覇市)を訪ね、亀次郎の次女で館長の内村千尋さんに聞いた。



タブーだった日本復帰求め

「戦争は終わったが地獄は続いていた」。敗戦後の沖縄を統治した

米軍政下、住民は銃剣とブルドーザーで土地を奪われた。各地で婦女暴行事件が頻発していた。〈瀬長一人が叫んだなら50分先まで聞かせる。〉(中略)。沖縄の70万人が声をそろえて叫んだら、太平洋の荒波を超えてワシントン政府をうごかすことができる。敗戦から5年の1950年、沖縄群島知事選挙に立候補し、タブーだった祖国復帰への思いを訴えた亀次郎の言葉だ。亀

次郎は落選したが、「カメさんの背中に乗って日本へ帰ろう」と、祖国復帰要求は高まった。米軍への宣誓しない。議員が呼名され起立し米軍に宣誓する中、最後に呼ばれた亀次郎は、ただ一人無言で着席し続けた。占領軍が相手国に対して忠誠の強制を禁じているハーグ陸戦法規を論拠にした行為だった。

米軍への不宣誓、県民へ献身

52年、サンフランシスコ講和条約で日本が独立した後も、沖縄は米国の間接統治に置かれた。その年、第一回立法議員選挙でトップ当選した亀次郎は、今に残る逸話を残す。琉球政府の創立式典

での不宣誓不起立だ。県民には宣誓するが、米軍には宣誓しない。議員が呼名され起立し米軍に宣誓する中、最後に呼ばれた亀次郎は、ただ一人無言で着席し続けた。占領軍が相手国に対して忠誠の強制を禁じているハーグ陸戦法規を論拠にした行為だった。

その後、米軍への賃料が一坪年間コーラー一本にもならないと言われた当時、立法議員として、米軍による土地の強制収用に反対する住民を支援した。米軍は、抵抗運動の先頭に立つ亀次郎や所属する沖縄人民党への弾圧を強化する。

「オール沖縄」の源流を訪ねて～ 不屈館長 内村千尋さんに聞く



祖国復帰・基地撤去の先頭に政治家・瀬長亀次郎



不屈館館長 内村千尋さん

不屈館 瀬長亀次郎が残した膨大な資料を中心に、沖縄の民衆のたたかいを後世に伝えるために設立。大人500円/大・高校生300円/中学生以下無料。火曜休館。那覇市若狭2丁目21-5。Tel.098-943-8374

「土地を守る4原則(一括払い反対、適正補償、損害補償、新規接収反対)」を掲げた「島ぐるみ闘争」が高揚するなか、亀次郎は奔走した。この年の那覇市長選で、予想を覆し当選。直後から瀬長降ろしが始まった。米軍の意向を受けた銀行が融資を拒否するなど、市政運営の危機に立たされたが、自主的納税が進むなど、危機を救ったのは市民だった。業を煮やした米軍は、市長不信任を可決させ、亀次郎を追放した。

沖繩が日本に復帰しての初の総選挙で瀬長氏が当選した時の遠い記憶が私にはある。テレビには、エラが張った浅黒い顔、小柄で痩身、どこか教養がにじみ出ている映像が映し出されていた。

不屈館を見学し、氏が好んで揮毫した「不屈奉仕」のとりの人生を送っておられたこと、その風貌には闘いの半生が刻まれていたことを知ることができた。瀬長氏の演説会場はい

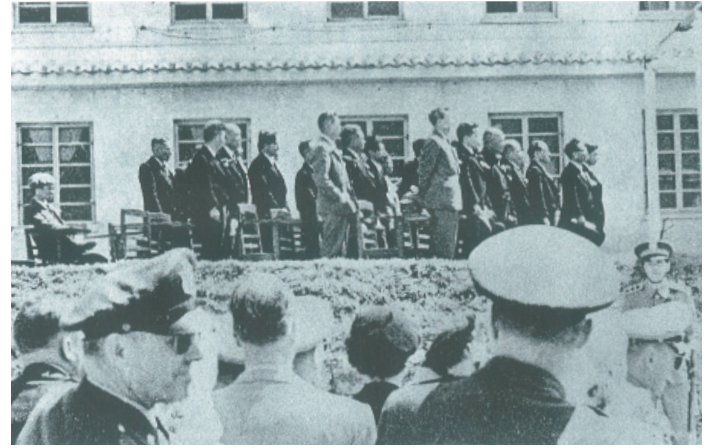
弾圧に屈せず、ヒーローに
54年には退去命令に従わなかった人民党員を「かくまった」という口実で、獄中へ。裁判で亀次郎は、こう述べた。
〈瀬長の口を封じることはできて、虐げられる

ながら内村さんは、「米軍は弾圧しよう」と投獄したのに、屈しなかった亀次郎はヒーローになってしまった」と振り返る。

「土地を守る4原則(一括払い反対、適正補償、損害補償、新規接収反対)」を掲げた「島ぐるみ闘争」が高揚するなか、亀次郎は奔走した。この年の那覇市長選で、予想を覆し当選。直後から瀬長降ろしが始まった。米軍の意向を受けた銀行が融資を拒否するなど、市政運営の危機に立たされたが、自主的納税が進むなど、危機を救ったのは市民だった。業を煮やした米軍は、市長不信任を可決させ、亀次郎を追放した。

沖繩が日本に復帰しての初の総選挙で瀬長氏が当選した時の遠い記憶が私にはある。テレビには、エラが張った浅黒い顔、小柄で痩身、どこか教養がにじみ出ている映像が映し出されていた。

不屈館を見学し、氏が好んで揮毫した「不屈奉仕」のとりの人生を送っておられたこと、その風貌には闘いの半生が刻まれていたことを知ることができた。瀬長氏の演説会場はい



最後尾に座ったまま米軍への宣誓を拒否する亀次郎(1952年4月1日)＝不屈館提供



佐藤首相を追及する亀次郎(71年)＝不屈館提供

内村さんは、「民意を無視した強権的なやり方は、当時の米軍も安倍政権も同じ。11カ月で市長の座を追われた亀次郎だったが、民衆の支持と本土復帰の要求を高めることになった」と振り返る。

2001年に94歳で、この世を去った亀次郎。島ぐるみで「新基地ノ」を訴える「オール沖縄」の姿に何を思っただろうか。内村さんは、「亀次郎なら全国の世論がひとつになることを訴えるでしょう。ベトナム

反戦の全国の声が祖国復帰を後押ししたように。「オール沖縄」・「オールジャパン」となって、辺野古新基地を中止させた」と力を込める。

つも聴衆であふれたという。無類の読書家で勉強家だった氏は、民衆に語り掛けるように、基地問題ははじめ、難しいことをわかりやすく、時には巧みなたとえや冗談も交えながら、問題の本質を伝えたそだ。

不屈館は今につづいたたかいの歴史の宝庫であり、私たちが知るべき沖縄を語ってくれる。

カメさんの風貌

新聞部・谷聰

不屈館は今につづいたたかいの歴史の宝庫であり、私たちが知るべき沖縄を語ってくれる。

せなが・かめじろう (1907-2001)

1907年、沖縄県豊見城村(現、豊見城市)我那覇に生まれ。旧制第七高等学校(現鹿児島大学)で社会主義運動に加わったとして放校処分となる。兵役、新聞記者などを経て、うるま新報(現琉球新報)社長に就

任。沖縄人民党書記長となり、立法院議員、那覇市長に当選。沖縄初の国政参加選挙で衆議院議員に当選。以降7期連続当選を果たす。日本共産党副委員長などを歴任。享年94歳。ジュリオ＝キュリー賞、那覇市政功労賞、県自治功労賞などを受賞。那覇名誉市民、豊見城名誉村民。